

■ 企業様向け学校見学会 ■

9月30日(金)に校区の企業様にお集まりいただき、学校見学会を開催しました。本校の概要説明や進路取組、雇用までの流れ、校外実習の報告、学校見学等を行いました。

校外実習の報告では、高等部みらいデザインコースの2年生の生徒が、1学期に行った実習の報告をしました。緊張している様子でしたが、堂々と発表することができ、質問に対してもしっかり応えることができました。作業学習の参観では、生徒による作業についての具体的な説明を熱心に聞いていただきました。また、スクールキャラクター「やまぶー」の焼き印を押す作業体験では、実際の体験を通して、生徒の作業スキルの高さを実感していただきました。

参加していただいた企業様からは、
「堂々と発表していて、こちらも励みになった!」
「報告を聞いて心が揺れ動きました」
等の感想をいただきました。

企業様に学校のことや生徒たちの頑張りを理解していただくとともに、新たな企業様とむすぶ大変よい機会となりました。参加していただいた企業の皆様、ありがとうございました。



■ 山城北圏域福祉事業所説明会 ■

9月20日(火)に中学部3年生と高等部の保護者対象に山城北圏域福祉事業所説明会が行われました。説明会では、山城北圏域障害者自立支援協議会事務局の方が来校し、福祉サービスの概要や卒業後の具体的な支援の組み立て方の説明がありました。「具体例を挙げながらの説明だったので、とてもわかりやすかった。」という感想が多くありました。



■ 進路に関する窓口について ■

進路に関することで知りたい情報や進路学習会で取り組んでみたい内容等、お聞かせください。以下のQRコードを読み取っていただき、アンケートフォームより御記入ください。進路だよりや進路学習会で返ししていきます。



たくさんの方からの御意見お待ちしております。



アンケートフォーム
QRコード

■ 進路の取組予定 ■

■ 中学部 ■

10/13・14…保護者対象施設見学
11/4…3年生保護者対象進路学習会
11/18…2年生保護者対象進路学習会

■ 高等部 ■

10/11・18…保護者対象施設見学
11/14・15…3年生後期進路相談
11/17・18…校内実習(くらしデザイン)
11/28~12/2…校内実習(みらいデザイン)

■ やまぶき進路ちゃんねる ■

“進路”と聞くと“高等部”というイメージが強いです。が、小学部や中学部からでも始められる取組はたくさんあります。そこで、今回は小学部や中学部から取り組めることを紹介していきます。今からできることを無理なく取り組みましょう。また、今回紹介したものがすべてではないので、お子様や担任等と相談しながら、卒業後の生活をイメージして、いろいろなことに挑戦していきましょう。

①自分でできることを増やす(身辺自立)

食事やトイレ、衣服の着脱など自立して1人でできるようになると利用できる福祉事業所の幅が広がります。また、起床や荷物の準備、服薬管理など自分でできることも増やしていけると将来の自立した生活につながります。



②家のお手伝いをする

家のお手伝いには、洗濯たたみや食器洗い、食事の準備、新聞取り、お風呂洗い、掃除など様々なものがあります。家のお手伝いをする事で「ありがとう」と感謝してもらえる喜びや役立ち感を得ることが出来ます。こうした感情が将来“働きたい”という思いにつながります。また、洗濯たたみが得意な子どもは、リネン作業、食器洗いや食事の準備が得意な子どもは飲食店、掃除が得意な子どもは清掃作業など得意なことが仕事につながることもあります。



おはようございます

③あいさつができる

働く上で一番大事なのが、あいさつができることです。企業や福祉事業所に「働くうえで一番大事なこと」を訪ねても「あいさつができること」と返事があるほど、「あいさつ」は重要視されています。自分から元気よくあいさつができるようにしていきましょう。



④自分の思いを伝える(選択できる)

進路選択をする上で、自分の思いを伝えたり、選択したりできることはとても大切なことです。将来、働くのは児童・生徒たちなので、児童・生徒たちの意見を尊重して、進路選択を進めていきます。やりたいことや好きなこと、苦手なことなど自分の思いを伝えたり、選択したりできるようにしていきましょう。



⑤楽しみや余暇をもつ

「働きたい」と思ったり、働き続けるモチベーションを保ったりするには、楽しみや余暇をもつことが大切です。「ゲームを買いたい」「旅行に行きたい」「電車に乗りたい」などやりたいことがあるとモチベーションに繋がり、お金を稼ぐために働くことにも繋がります。好きなことややりたいことの幅を広げておくと、将来の楽しみが増えていきます。



⑥公共交通機関に慣れる

進路先を決めるときに、作業はできるが1人で福祉事業所や企業まで行くことができず、選択肢の幅が狭まることがあります。小・中学部から公共交通機関に乗る経験を積んでおくことで、料金の払い方やマナーを学ぶことができ、将来に繋がることもあります。

